



1. 今の病院のようす

肝付町立病院は 40 床の入院設備を持つ、小規模ながら鹿児島県内で唯一の町立病院です。内科・外科・整形外科・眼科等の診療を行い、日常の診察から夜間・休日も含めた 24 時間の救急医療まで対応しています。

また、医師がいない岸良地区には週に 2 回出張診療を行っており、地域の暮らしを支える「へき地医療」の重要な役割を果たしています。

患者さんのご自宅や介護施設を訪問して診療する「在宅医療」にも力を入れており、地域の包括的な医療・介護の体制づくりに貢献しています。

さらに、特定健診（健康診断）や予防接種なども積極的に行い、病気の早期発見・早期治療と、町民の健康づくりに努めています。



2. 今抱えている課題

現在、病院として次のような課題を抱えています。

①医師や看護師など医療スタッフの安定的な確保と育成、②経営の安定と持続可能な財政基盤の確保、③高齢化や多様化する医療ニーズへの対応、④他の医療機関や介護施設との連携の強化、⑤病院施設の老朽化と、それに伴う修繕・更新の必要性などが挙げられます。

3. これからの取り組み

これらの課題に対して、今後は以下のような取り組みを進めていきます。

●**人材の確保と育成**：へき地医療に関心のある医師の研修等を積極的に受け入れ、鹿児島大学の地域枠や自治医科大学の卒業医師を今後も引き続き受け入れていきます。また、福利厚生の実施や働きやすい職場づくりを通じて、職員が地域に定着しやすい環境を整えていきます。

●**経営の安定化**：国や県、町の支援に加えて、私たち自身の努力も不可欠です。日々の医療業務を丁寧に行い、医療の質を高めながら診療報酬を確保することで、病院の経営を安定させていきます。経営の健全化こそが、病院を存続させる力の源です。

●**医療ニーズへの対応**：高齢化の進展や、一人暮らしの高齢者の増加、複数の病気を抱える患者の増加に対応するため、医療・介護・行政が一体となり、多職種で協力し合う体制がますます重要になります。

●**地域との連携強化**：大きな病院へのスムーズな紹介や退院後の在宅医療・介護への切れ目ない対応、また、周辺の医療機関との連携強化が、今後の医療提供体制において欠かせません。

●**施設の老朽化への対応**：当院は築 41 年が経過し、建物の古さが目立ってきています。医療機器の更新や職員の待遇改善などには引き続き取り組んでいますが、建物そのものの老朽化には限界があります。今後はそれらの対策について、町や関係機関と連携しながら現実的な検討を進めていく必要があります。

4. まとめ

医療や地域を取り巻く環境が大きく変化する中で、町民の皆さま、行政、そして周囲の医療・介護機関としっかり連携し、今できることに職員全員で力を尽くすことが、町立病院としての役割であり、これからも病院を存続させていくための大切な鍵だと考えています。

文：肝付町立病院 院長 菰方輝夫

お問い合わせ先 肝付町立病院 ☎ 0994(67)2721

